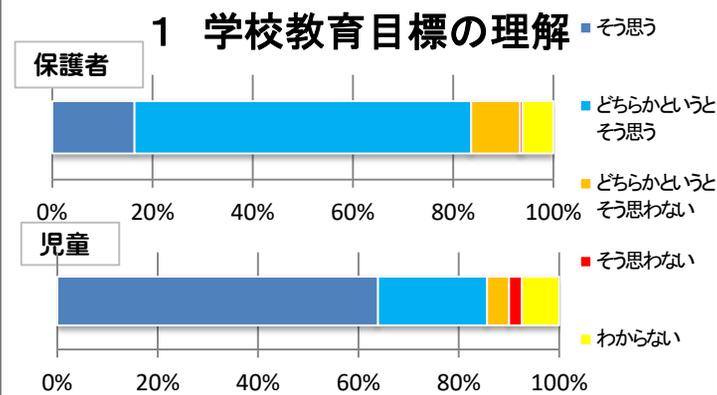




令和6年2月22日

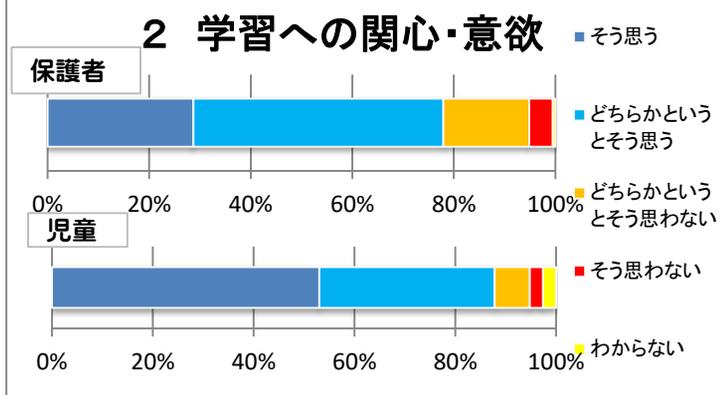
過日実施いたしました教育活動アンケートの結果を公表いたします。皆様からの貴重な御意見を今後の活動の参考にして参りたいと思います。お忙しい中、御協力ありがとうございました。

学校の教育方針や教育目標を知っているか。



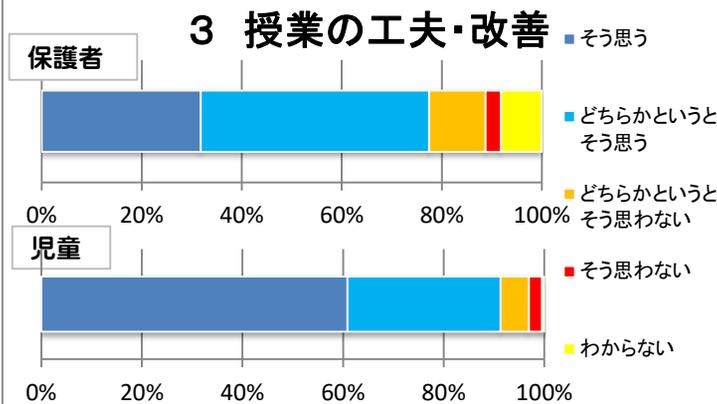
令和4年度より、保護者のそう思う割合が増えている状況から、本校の目標については概ね周知されていることがわかる。今後もホームページや保護者会、または地域に向けて、教育活動の様子も含め広く伝えるよう努力していく。

進んで学習に取り組んでいるか。



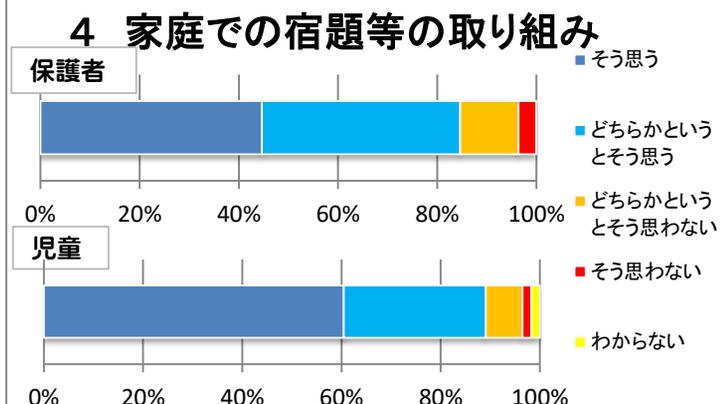
昨年同様88%（昨年88%）の児童が進んで学習に取り組んでいると答えており、学習意欲が高いことがわかる。しかし、そう思わない児童が昨年0名対して6名いることについては、深刻に受け止め、誰1人取り残さない指導を心がけていく。保護者についても、肯定的な意見（83%、昨年87%）が依然として多いので、引き続き児童の意欲が伝わるよう工夫していく。

授業が分かりやすいか。



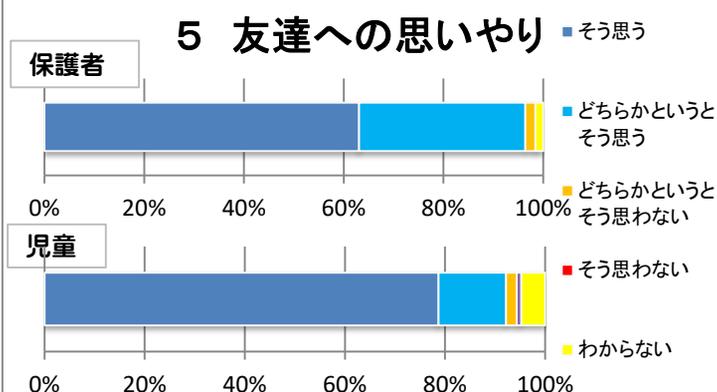
94%の児童が肯定的な回答をしている。今年度は、文部科学省より授業時数特例校としての指定を受け、主にICTを活用した情報探求の授業に力を入れた。生成AIを使った教科学習やロボットを使ったプログラミング教育、データサイエンスなどを各学年で取り組むことで児童の興味や関心を引き出すことができた成果だと考える。

家庭で宿題や課題・家庭学習に取り組んでいるか。



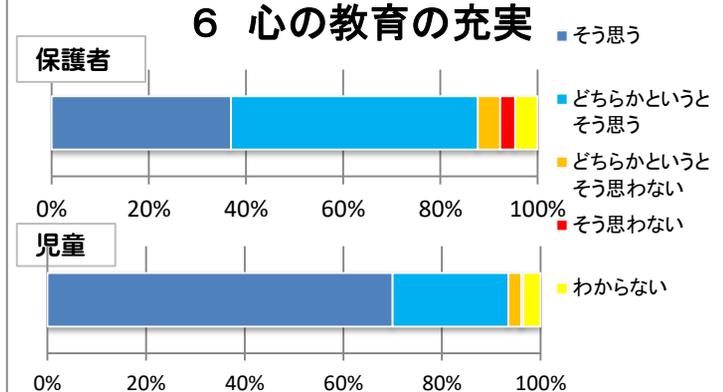
昨年と同様、個別最適化学習を目指し、学習の振り返りができるようにノートの記録やデータの積み重ねをしている。それを必要に応じて活用できるようにしている。原山っ子ノートなど家庭学習の習慣が身に付くように継続して学習の取り組み方について指導していく。

友達を大切にしていると思うか。



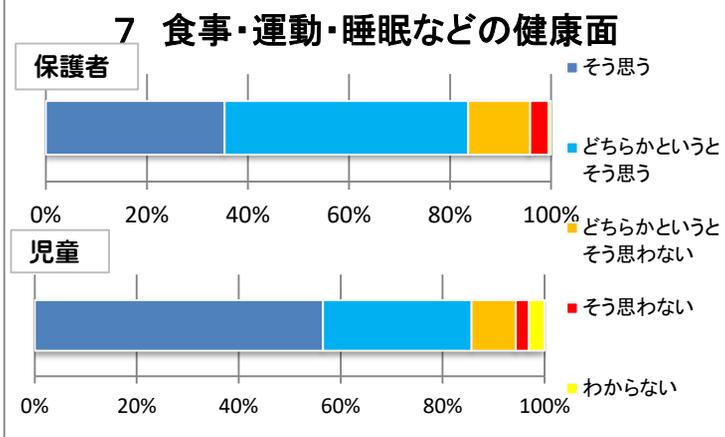
昨年同様、92%の児童が肯定的な回答をしている。昨年度の96%に対し、4%のダウンは、どちらかといえばそう思わないというやや否定的な意見が見られる。他者を思いやる気持ちを育てることを目的に道徳科では、考え議論する道徳にICTを活用して取り組んだ。他者の意見を取り入れることで、自分を見つめ直すことができていると考える事もできる。

豊かな人間性を育む心の教育の充実に努力しているか。



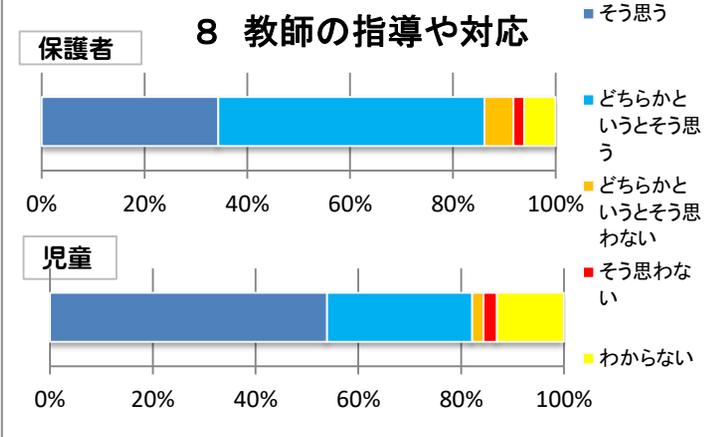
特別の教科「道徳」の充実や人権教育、デジタル・シティズンシップ教育などと合わせて、心の教育に力を入れているが、保護者からは、心の教育が十分でないという意見が昨年度よりわずかではあるが増加している。生活アンケートにおいても、友人からの心ないことばや、暴力に心を痛めている児童がいることもわかっている。生徒指導も含め、児童の悩み事には迅速に対応していく。

健康に気を付けて生活しているか。



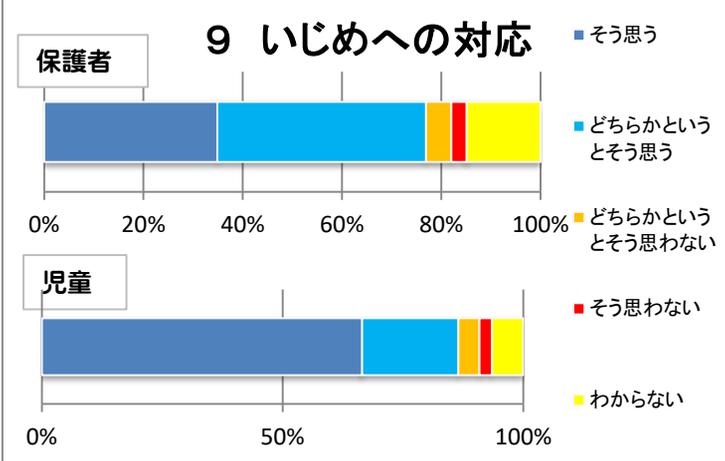
行動制限が解除され、部活動やクラブ活動など、通常の活動が行われるようになった、児童の体力の低下や運動不足が見られるが、運動の機会の設定や無理をしない指導を心がけ、児童の体力向上に努める。一部ではあるが、スマートフォンの所持年齢の低下に伴い、睡眠不足や不登校の状況が見られる。デジタルシチズンシップ教育を進め、ICTと生活習慣の関係についても改善していくようにする。

1人1人を大切にしたい指導や対応ができていると思うか。



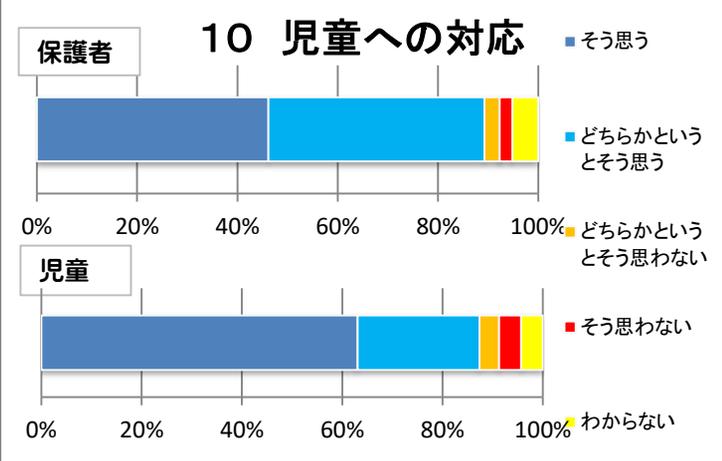
定期的に教育相談を実施して、1人ひとりの児童と話し、個別に話せる機会を設けている。昨年度と比較し、保護者は昨年同様に対し、児童は、そう思わない、わからないの回答がわずかに増えている。児童1人1人の丁寧な対応が求められる現状は厳しいが、公平・公正の観点から、どの児童にも同じように対応していく。

いじめがあったとき、すぐに話を聞いて対応してくれると思うか。



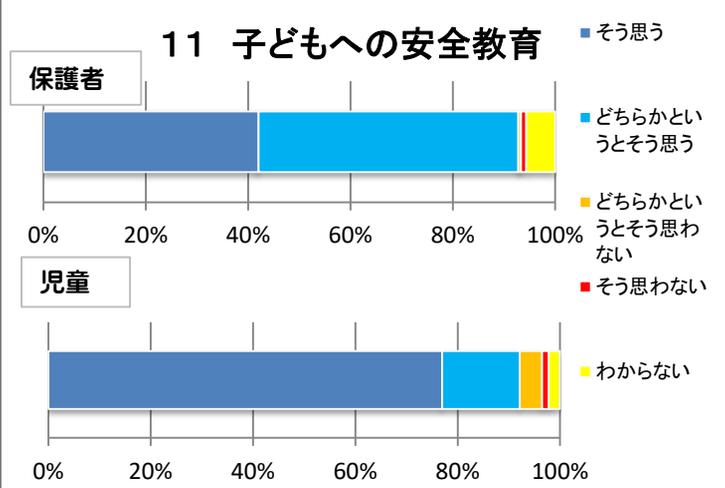
児童理解に努め、保護者との連絡・相談にも真摯に取り組んでいる。昨年度と比較し、児童のそう思わない回答がわずかに増加している。いじめの定義も、身体的、精神的苦痛を伴うものは、いじめとして指導しているため、状況の前後関係と指導すべき内容を誤ると根本的な解決に導くことは難しい。とはいえ、隠すのではなく、こういったアンケートで本音が出てくる状況をこれからの指導に生かしていく。

困ったことがあったとき、すぐに話を聞いて対応してくれると思うか。



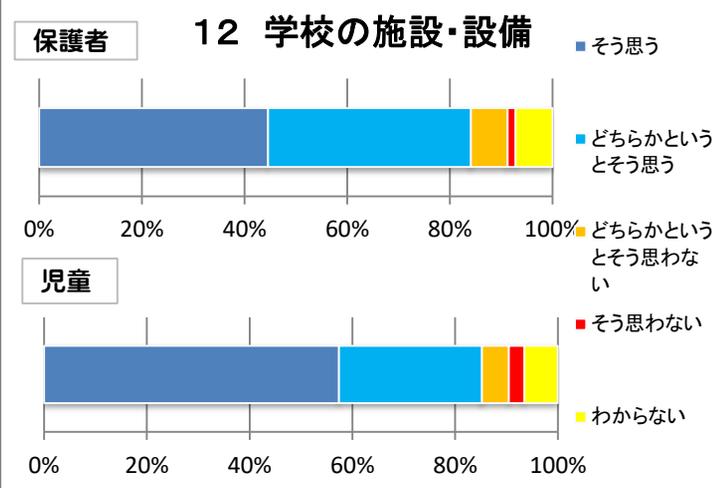
子どもたちの悩みに応えるため、定期的に心のアンケートや教育相談を実施し、通年でデジタル相談箱を設けている。デジタル相談箱の利用実績は令和5年度0件で、悩みや相談については、対面や筆記の方が本校としては成果が高い。そう思わない児童（消極的な回答）が全体的に増加しているが、発見方法や対応の早さ、保護者との連携を常に意識して対応していく必要がある。

事故防止などの安全教育に取り組んでいると思うか。



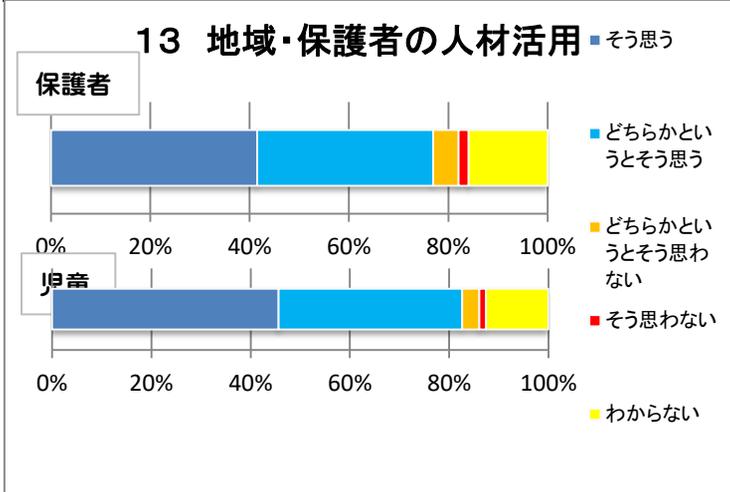
保護者の方にも御協力いただきながら朝の交通安全を行うことができた。今後も、ボランティアによる登校時の安全指導を継続していく。PTAや地域の方が、実際に活動している姿を児童が目当たりにすることで安全への意識が向上すると感じる。しかし、大人がいない場所、住宅街での事故の報告が何件もあったので、見守り活動の推進と定期的な指導の繰り返して、児童への定着を目指す。

学校の施設・設備は整っていると思うか。



児童の安全を最優先とし、不十分な点については改善に向けて努力した。老朽化や故障箇所については修繕依頼をできるだけ迅速に行い、事故の未然防止に努める。用具や備品についても、古いものを大事に使う精神と併せて、新しくすることで利便さや効率性が上がると見通しを持って導入していく。

市や地域の環境・施設・人材を活かしていると思うか。



読み聞かせボランティアの方のご協力や様々な企業との連携支援で質の高い授業実践をすることができた。保護者に関しては、そのような活動をしていることが「わからない」という回答が多く見られることから、ホームページやスクリーンなどで活動の様子を広く伝えていく必要がある。